

ATM 交換実験システム (Libra- I)

1989 年 (平成元)、ATM で送られる情報を交換する ATM 交換実験システム (Libra- I) の基本となるセルスイッチが開発された。ISDN の 1 次群速度が 1.5/2Mbps を超える高速・広帯域 ISDN では、従来の回線交換やパケット交換とは異なる ATM で情報を転送するため、新しい交換システムの構成法と制御方式が必要となる。ATM ではすべての情報がセルで運ばれ、その交換品質はセルの遅延時間と廃棄率、すなわちサービスクラスで示される。このため、遅延と廃棄が小さなスイッチ構成、サービスクラスに対応した遅延と廃棄制御を目指して開発を進めた。開発システムは、分散型メモリスイッチ方式の導入で、遅延と廃棄の小さいスイッチ構成とし、さらにサービスクラス制御を 1 カ所でまとめて処理することによって、簡単なメカニズムで効率の良い遅延と廃棄の制御が実現した。

出典：KDD 社史